



中国語って、
音がみたいな言葉だね。

2008年日中学院文化祭

たくさんの方の御来校、ありがとうございました!

10月25日(土)、前日の激しい雨から一転、すっきりとした秋晴れの中、2008年度日中学院文化祭が開催されました。

今年は舞台発表のプログラムも充実し、恒例の本科、日本語科各クラスの演目を始め、本科、別科の有志の方々、校友会の方々など、たくさんの方が参加してくれました。本科は各クラスとも工夫を凝らした劇が話題を呼び、練習や衣装、大道具、小道具に力を入れていました。各クラス、練習中も和気あいあいとしていて、放課後に一生懸命準備している姿を何度も見かけました。

また、今年は食品の安全が問題になる中、各クラスとも模擬店のメニューを最後まで悩み、気を使ってメニューを選びました。当日はどれも大変好評で、ほとんどが売り切れになりました。

たくさんの方が日中学院に足を運んで下さり、大盛況のうちに今年の文化祭を終えることができました。一部ですが文化祭の写真を掲載致します。どうぞご覧下さい。

2008年文化祭実行委員長 出村智美

A先生の新語コーナー



Shénqī “神七”

“神七”：中国の有人宇宙船「神舟7号」のこと。3人の宇宙飛行士が乗り込み、9月25日夜に甘肅省西北部の酒泉衛星発射センターから打ち上げられ、70時間近く飛行した後、内蒙古の草原に無事帰還した。今回の目玉は宇宙遊泳であり、1人の飛行士が約20分にわたり、中国初の船外活動を行うことに成功した。有人宇宙飛行は2003年(神舟5号)と2005年(神舟6号)に続き、これが3回目。中国は2020年前後に有人宇宙ステーションを完成させることを目指している。(A)



太極拳



本科2A「美女と野獣」



本科1A「裸の王様」



本科2B「ドラゴンボール」



別科朗読大会再演



服部同学「八極拳」



日語科1-1「シンデレラ」



琵琶演奏と歌



本科2B「焼きそば」



本研「豚汁&茶タマゴ」



本科2A「水餃子」

模擬店 タイム



本科1B「コロッセ&ゼリー」



本科1A「ラムネ&駄菓子」



南京大虐殺70周年集会参加報告



日語科2年「小話と歌」



ギター演奏と歌



本研「博士を探して」



日語科1-2「ロミオとジュリエット」



本科1B「狼と7匹の子山羊」



校友会「ピースリーディング」



本研「盲目の乞食とゴミ拾いの少女」

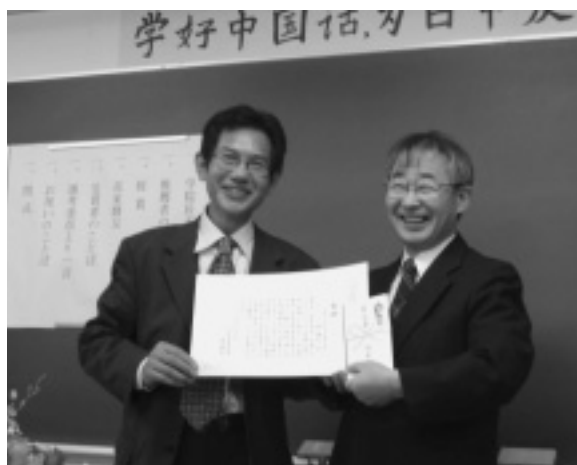


今年の文化祭委員

日中学院第18回倉石賞授賞式報告

11月15日、日中学院第18回倉石賞授賞式及び祝賀会（参加者80名）が開かれました。当日は大勢の出席者のもと、受賞者段躍中氏の基調報告、推薦者木下俊彦氏、日中友好会館村上立躬理事長、中国大使館教育処魏鈞原氏からご祝辞、選考委員を代表して輿水優先生から選評をいただきました。授賞式の後、会場をレストラン豫園に移し祝賀会が行われました。当日の様子は「人民網」でも報道されました。

以下は賞状の文面と受賞者による基調報告の要約です。



賞状

貴殿は、来日以来、中国でのジャーナリストの経験と持ち前の勤勉さを活かし、日本僑報社、日中交流研究所等を立ち上げ、数々の活動を通じ日中相互理解のために貢献されています。これまでの活動を高く評価し、また今後の活動が更に公正で日中両国の人々の交流に役立つものになることを期待し、ここに表彰いたします。

2008年11月15日

日中学院長 吉田隆司

基調報告の内容

1、段躍中来日以来の活動

●1991年留学生としての来日

「来日当初は、日本語が全くできず、アルバイトをするのが大変でした。そのとき、杉山さんを始め多くの日本人、中国人の皆様に助けられました。その結果、修士、博士の学位をとることができました。」

●日本でのジャーナリストとしての活動

学位を取得したのち、大学に残る道もありました。しかし、中国で『青年報』に勤務していたこともあり、日本での活動はジャーナリズムの世界で活動することが役に立てると考え、日々日中交流情報発信活動を行ってきました。その主な内容は次の通りです。

- (1) 月刊日本華僑報（'96～'08年11月現在124号）
- (2) 週間メルマガ日本僑報電子週刊（'98～11月12日までに802号）
- (3) 日刊ブログ「段躍中日報」（05年4月15日～08年11月15日現在6816本の記事を掲載。）
- (4) 報道写真記者として、中国の人民網日本版と中国新聞社に約1000枚の写真と投稿
- (5) 単行本出版（08年11月現在182点）

☞ P5に続く

私の学習方法 暗記・暗誦

別科生 宇都宏昭

日中学院に通いはじめて一年。毎日が楽しく、充実した日々を送っています。この十月には朗読大会と文化祭にも参加させて頂きました。私にとっては初めての経験であり、何もかも新鮮でした。発音の指導をして頂いた先生をはじめ、クラスメートには心から感謝しています。

朗読大会では、中国語の美しさをあらためて実感しました。また朗読の奥の深さも垣間見たような気がします。というのは、練習をすればするほど、表現の仕方に疑問が湧き、思考錯誤の連続だったからです。朗読大会の当日も、結局、果たしてこれでいいのかと疑問を感じながらの朗読になってしまいました。本格的に中国語の学習をはじめて一年にしかならない私が言うのもおかしいのですが、朗読に自分が100%納得できる「到達点」のようなものはあるのでしょうか。自分のレベルの低さはさておき、一度朗読の専門家に聞いてみたいものだと思っています。



学院祭に参加

朗読大会に参加したことで、『学院報』への寄稿という思わぬ副産物が舞い込んできました。中国語の発音の学習方法を書いてほしいとのことなのですが、私は発音のための勉強などした

ことはありません。そのことを率直に申し上げ、発音は女性の方がきれいだし女性に執筆を頼まれたらどうですかと、一度は断りました。しかしその先生が言われるには「女性の発音がきれいなのは分かっています。あなたが男だから頼んでいるのです」とのこと。なんだか喜んでいいのやら分からなくなるお言葉だったのですが、断りきれずつい引き受けてしまいました。そのせいで、自分が一体どんな発音練習をしてきたのか、考えあぐねるハメになってしまったのです。

中国語の学習では発音が大切だということによく言われていることで、私にも印象に強く残っている人の言葉があります。

一人は京劇俳優になった石山雄太さん。彼が北京で京劇を目指し始めた頃、インタビューの中でこういうことを言っていました。「一番気をつけていることは発音です。とくに“n”音と“ng”音の違いに気をつけています。中国の人におかしいと思われまから」。

もう一人は外務省の岡田勝さん、「中国語の発音は習い始めが肝心です。習い始めは発音の基礎ができあがる段階で、発音が間違っただま固定されてしまうと、後から矯正するのは難しいです。発音の勉強をする時は特に気をつけ、標準語に多く触れるようにして下さい」（『中国語ジャーナル』2007年6月号）。

石山さんの言葉は、十数年以上も前のことなのに、どういうわけか頭にこびりついています。そこで、発音の練習などしたことがない私が、発音に役立つことを何かしてきたかということですが、思いあたることはたった一つ、しょっちゅう唐詩を暗記してきたということです。私は唐詩が好きで、以前からいろんな詩を暗記してきました。暗誦をする時、正確かどうかは別にして、なるべく四声に忠実であろうと心がけ

たことは確かです。その延長線上で、学院のテキストの文章もできるだけ暗記することになっています。一つの詩や文章を暗記するには、その詩や文章を何回も繰り返して音読する必要がありますから、それが結果的に発音の練習につながっていたのではないかと思ったのですが、どんなものなのでしょう。ただ私の経験からすると、暗誦を繰り返すと、発音には否応なく敏感になるような気がします。朗読大会に参加された方も、おそらくこのことは実感されているのではないのでしょうか。

暗記は、年齢とともに難しくなると言われますが、斯く言う私もその一人で、以前は楽しかった暗記に、今ではストレスを感じるようになってきました。思うように暗記ができず、覚えてもすぐ忘れる、それが原因で胃が痛むこともしばしばです。何もここまでやる必要はない、と自分でも思うのですが、それでも暗記にこだわってしまうのは、暗記ができたという達成感や充実感があるからです。自己満足にすぎませ

んが、これは私にとって何のものにも変えがたいもので、中国語学習のエネルギーともなっています。暗記・暗誦が中国語の上達に役立つかどうかは分かりません。しかし私はこの暗誦という学習スタイルが気に入っていますし、これからもこだわり続けたいと思っています。

最後に、僭越を承知で以下のことを付言させていただきます。

中日友好協会の会長であった廖承志氏が生前、将来の日中関係に触れ「この大戦の体験者が日本に存命しているうちは、日中関係は心配ない。しかしその後のことは分からない」という趣旨の発言をされたことがありました。私は両国の関係が、この学院の文化祭のように、いつまでも和やかなものであってほしいと願っています。相互交流を通して、両国の相互理解が一層深まることを期待してやみません。相互理解とは、相手に自分の言い分を理解しろと要求することではなく、相手の言い分を誠実に受けとめ、理解しようと努力することを言うのだと信じます。

☞ 日中学院第 18 回倉石賞授賞式報告 P3 からの続き

●中国語教育・普及活動

- (6) 非常勤の中国語講師（1998年～3つの大学で10コマ担当）
- (7) 星期日漢語角創設（07年8月5日～現在まで西池袋公園に65回開催）
- (8) 日中翻訳学院の創立（08年9月29日創立、現在3つの講座開講）
- (9) 日本人の中国語作文コンクールを主催05年～現在まで4回実施、延べ600名参加）

●資料収集・研究活動

- (10) 在日中国文献資料センター（'96年～現在まで日本で発刊された中国語新聞雑誌約200タイトル、実物2万点/中国人の日本語著書と中国で刊行された日本関連書籍約1000冊を所蔵）
- (11) 池袋中国研究会創設（池袋で活躍する中国人の資料を収集整理し、池袋と中国に関わる情報を編集して日本人と華僑社会との交流と相互理解を深めることを目的としている）

2、直面している問題

- (12) 人手不足：日中交流の架け橋になる志をもつ常勤スタッフを募集中。日中学院で学んでいる若い方歓迎
- (13) 日中作文コンクール開催の資金不足：1口5000円の募金活動を開始いたしますので、是非ご協力ください。お礼は受賞作品集と1年間の『日本僑報』の贈呈

段躍中さん受賞おめでとうございます！

中国人的精神

北京語言大学 速成学院

渡辺浩弥（元日中学院本科生）

5月19号下午，我在某学校的办公室，突然沉重的警报声响了起来。我看墙上的挂钟，表针正指向两点二十八分，我马上想起来今天早上看的电视新闻。

今天距离四川大地震发生已经整整七天，下午两点二十八分是所有中国人默哀的时间。办公室里所有的老师都站起来了，底下头默哀，我也开始底下头祈祷。我听见一位女老师抽泣的声音，看见外面的几个学生也在默默地祷告，一位骑车路过的欧美学生用诧异的眼光看着他们，从默哀的人群中穿过，也许他还不知道今天早上的新闻。

三分钟后警报声停下来，我走出了办公室。马路上又恢复了正常，我走到一家银行前面停下了脚步。那儿有一根平时挂着五星红旗的旗杆，这时下了半旗。我抬头看着半旗，想起以前也见过下半旗。2001年9月11日，当时我住在美国，9·11恐怖活动后美国也下了半旗。

我看着半旗，眼泪突然掉了下来，我想起地震中一位小学教师为救助学生而受重伤去世。那个新闻也马上在国外报道了。我想，我自己能不能也像那位小学教师一样不顾自己的

生命去救助别人呢？

以前，要是有人问我“你眼里的中国人怎么样？你觉得中国人是什么样的人？”我的回答肯定是这样的：“我不知道中国人是什么样的人。要是我交中国朋友，我想的只是‘他的性格怎么样？脾气好不好？我能不能跟他合得来？能不能当他的朋友？’。但是我还不能下结论中国人是什么样的，因为各人有各人的不同，中国人也一样。我怕片面的看法会导致误会或者偏见。

我问过几个中国朋友：“如今，儒家思想给你和老百姓多多少少带来过一些影响吗？”如果我想跟中国人深入地讨论这么抽象的话题，需要较高的汉语水平。但是现在我的汉语还没达到跟他们讨论这样话题的水平，我几乎听不懂他们的回答。我从听得懂的内容猜他们的意思，我觉得对我们外国人，特别对像我这样学习汉语仅仅一年多的留学生来说，思考中国人普遍的思想非常困难，因为中国人口众多，民族也多。

但是当我看到半旗的时候，我的看法改变了，因为我觉得，“中国人口众多，各人有各人的想法”这样的看法虽然不错，但是并不全面。奋不顾身地去救助别人的生命，紧接着全面开始的全国范围的救援活动，捐款，献血……这都是最使我感动的中国人的奉献精神。

我对所有的遇难者谨表哀悼，同时跟中国人一起喊“加油！”

北京語言大学報より転載

◇資料のご寄贈に関して◇（図書室より）

いつも図書室をご利用頂きありがとうございます。図書室では毎年受講生、卒業生、旧教職員の皆様から図書やビデオテープなどの視聴覚資料を長年にわたってご寄贈いただきました。これまで寄贈されました資料は在校生の中国語、日本語学習や中国理解に大いに活用されております。寄贈頂きました皆様に心より感謝申し上げます。

しかしながら、ご承知のとおり当図書室は場所も狭く、蔵書を保管するスペースも限界に達してきており、寄贈された資料の受け入れもある程度制限せざるを得ない状況になりました。そこでお願いですが、図書室への寄贈書が多数になる際には、必ず前もって図書室までご一報下さいますようお願い申し上げます。このようなお願いは心苦しいのですが、何卒ご協力をお願い申し上げます。

図書室 だより

民族って？



—コキントウ (胡錦濤)、オンカホウ (温家宝) は日本語読みなのにイミョンバク (李明博)、キムジョンイル (金正日)は何故ハングル語？

それに答えてくれたのが—『朝鮮人がなぜ「日本名」を名ののか』金一勉 三一書房 1978年発行

それは1975年、在日韓国人牧師崔昌華氏が、自分の名を「サイ・シヨウカ」と呼んだNHKを相手取り、訴訟を起こしたことから始まる。

「私の名はチョエ・チャンホア。全ての韓国人朝鮮人の名を正しく呼んでくれ」。

その背景には民族の人権と誇り、そして過去の日本による植民地支配と創氏改名への抵抗がありました。

(注)本書出版後、この裁判は最高裁で敗訴。だがこれを機に、NHKはじめ各メディアは韓国人朝鮮人、そして地名にも民族語読みを始めたといわれる

●—愛と幻の満州国へいざ—『サキエル氏のパスポート』石黒健治 光人社

フォトグラファーである著者は、ユダヤ人に満州国のパスポートを発行した第二の杉原千畝を探してほしいと頼まれる。

依頼人サキエル氏から見せ

られたパスポートに血がさわいだ彼は、ドキュメント番組を制作しようと奔走する。取材が深まるにつれ、対ソ・独のスパイ活動、満州国のユダヤ画策が次々と照らし出されてきた。

本書はノンフィクションであり、実名と実在する資料が写真により証明されている。

●—おお〜い、アダム (艾田)君！—

『中国開封のユダヤ人』小岸昭人文書院

北宋時代、黄河の南岸に定住を許されたユダヤ人たちは皇帝より漢族姓を賜り、独自の共同体を組織しながらも、次第に中国人化していく。

科挙「秀才」に合格した艾田がルーツ・同胞を求め、北京に馬を飛ばし、キリスト教宣教師マティオ・リッチに面会に行く雄姿は男のロマンだ。やがて生じる上海ユダヤとの不和、日本のユダヤ観も興味深い。

●—真の隣人を知るために—『そうだったのか！中国』池上彰 集英社

共産党公認の歴史はもういらぬ。中国の真実をこれほどまでに読者にわかりやすく、かつ広く深く追求した本はなかった。面白くスイスイ読める。しかも読みながら「ウ〜ム」と唸り、文字通り『そうだったのか！』と、しばし絶句！ B係員の三ツ星★★★おすすめ本



●—休憩タイムに♪『安徒生童話』 光明日報

《伊索寓言故事屋》 光明日報
アンデルセンやイソップの童話が、かわいい挿絵と朗読CDで楽しく読めます。年末の大掃除のお供にも！

●『歌って覚える中国語』CDブック 日中通信社

月刊『聴く中国語』から、歌と解説のみを収録した音楽ファンにはおいしい本♪

周杰倫、劉徳華、陳坤、張学友など

◇ 新着図書 ◇

『地球の歩き方』中国／北京・天津／上海・杭州・蘇州／台湾／香港 ダイヤモンド社
『瀾滄江怒江伝』黄光成著 大澤香織訳 めこん

《长夜里拥抱》《爱上了你》《永不永不说再见》 张小娴著 十月文艺
《我要幸福》(郭徳綱相声漫画版) 长江文艺
《中国当代流行语全览》 夏中华主编 学林 ほか

◇ 新着DVD ◇

『似水年華 歲月、水のごとく』全12号(11月現在10号まで刊行) 日中通信社

主演：黄磊、劉若英、朱旭
江南地方の美しい水郷、烏鎮を舞台にした男女のせつない愛を描いた中国の大ヒットドラマがDVD&シナリオブックに！ 日中対訳拼音付き。

◇ お知らせ ◇

図書室は12月23日から来年1月8日まで休室します。この間、在籍・継続の皆様には通常より多くの貸出サービスがあります。詳しくは掲示をご覧ください。

12月の日中学院

日	一	二	三	四	五	六
	1 ●学院報405号	2	3	4	5 ●本科第1次試験 受付締切	6 ●公開講座 13時～ ●本科研究科学内 面接試験
7 ●本科第1次 入学試験	8	9 ●本科第1次 合格発表	10 ●本科第2次試験 受付開始	11 ●運営委員会	12 ●本科定期試験 ～19日	13 ●公開講座 13時～
14 ●全体講師会 ●忘年会	15	16	17	18	19 ●日本語科第2学 期授業最終日	20 ●本科第2学期 授業最終日
21	22	23 ●休日	24	25 ●仕事納め	26 ●教職員旅行 ～29日 冬季閉門～1/5	27
28	29	30	31			

●1月の日中学院

- ・6日…仕事始め/公開講座(入門、基礎)
- ・10日…全学授業開始
- ・15日…運営委員会

- ・16日…本科第2次試験応募締め切り
- ・18日…本科第2次入学試験
- ・24日…本科生のための公開講座
- ・26日…日本語科春節パーティ

- ・27日…本・日合同弁論大会
- ・29日…本科1年生選択授業聴講活動
- ・30日…本科第3次試験募集開始

■ご寄付

校友会宮園巖様より留学生疾病基金に1万円のご寄付をいただきました。ありがとうございます。

■耳目

●おめでとー!

日中友好協会スピーチコンテスト東京大会(11月9日)に出場した2名の同学が表彰を受けました。全国大会出場です。

・朗読の部：銀賞

赤岩伸彦同学(本科1年)

・弁論の部：北京市人民対外友好協会会長賞

香谷賢洋同学(本科2年)

●日中学院北京同窓会&天津同窓会が開かれました。中国での同窓会活動が活発です。11月1日に北京では稲垣同学の学生(北京で日本語を学ぶ中国人)との交流会、11月8日には天津で4人参加の同窓会が開

かれました。



天津同窓会

●日本語科パスハイクが11月21日、晴天の中行われました。



●委託講座 日中学院では、官公庁からの委託講座、企業への講師の派遣、個人レッスンなどのご要望にお

応えています。

●本科研究科では中国人留学生を募集しています。日中通訳技術、日本語能力向上を目指す方の応募をお待ちしています。詳細は事務局までお問い合わせください。

●通訳ガイド講座が新学期を迎えます。09年度通訳案内士1次試験(09年9月予定)に、向けての講座です。1月10日が開講です。

●中国語基礎速成講座1月スタートクラスが1月13日開講となります。授業日は、火・木の週2回コース、本学院初登場の盧尤講師が担当します。

●無料公開講座<1月分>

①1月6日(火)入門 18:45～20:45

②1月6日(火)基礎 18:45～20:45

■編集後記 校正ミスでの「お詫び」の多い1年でした。なんとも恥ずかしいことです。来年がんばります。祝新年快乐!